１１

読む

古文を味わう

〔確認〕

名前

解答

説話集とは

昔話や伝説などをもとにして書かれた話を集めたものです。よく知られてた昔話や笑い話を載せる「宇治拾遺物語」や、仏教説話や世俗説話を集めた「今昔物語集」、テーマごとに説話を分類して収める「古今著聞集」などが有名です。登場人物は、貴族から庶民、盗賊、天狗、鬼にまで及ぶ多彩なものです。

身に付けると…

昔の人々の生活の様子や考え方などを知ることができ、古文を読み味わうことができます。

やってみよう　〔解答・解説〕

〈作者〉〈作品〉作者、編者は不明。『宇治拾遺物語』は、鎌倉時代初期に成立した説話集です。仏教説話が多く、「今は昔」や「これも今は昔」という書き出しで始まるものがほとんどです。

〈現代語訳〉これも今となっては昔の話である。比叡山の延暦寺に児がいた。ある日の晩、僧たちが、宵（よい）の手持ちぶさたに「さぁ、ぼたもちを作ろう」と言ったのを、この児が聞きつけた。そうかといって、作り上げるのを待って寝ないでいたら、それもきっと（体裁が）よくないだろうと思って、片隅によって寝ているふりをして、（ぼたもちが）できてくるのを待っていると、もう作り上げた様子で（僧たちが）わいわい騒ぎ合っているのが聞こえてきたのである。

この児は、きっとだれかが自分を起こそうとするだろうと待っていた。（ある）僧が「もしもし、目を覚ましてください。」と言うのが聞こえて、うれしいとは思うけれども、ただ一度で返答するのも、待っていたのかと思われるかもしれない、と思って、もう一声呼ばれて返答しようと、がまんして寝ているうちに、「おい、お起こし申し上げるな。幼い人は、寝入ってしまわれた。」と言う声がした。それを聞きながら、ああ、それは困る、もう一度起こしてくれよと、思いながら寝たまま聞くと、むしゃむしゃと、しきりに食べる音がしたので、どうしようもなくて、長い時間の後に、「はい。」と返答したので、僧たちが笑うことはこの上ない。

一　①　ア　②　イ

二　できてくる（できる）

・児は幼いので、いつもは寝る時間なのでしょう。それなのに、今日に限ってぼたもちができるのを寝ないで待っているのは、体裁が悪いと思っているのです。

三　児・この児

・児は、僧が自分をもう一度起こしてくれることを期待して寝たふりを続けたのです。

四　もの申～たまへ

・「　」の終わりには、「～と」「～とぞ」「～と言ふ」などのように、「と」があります。これを目印にさがしましょう。

五　イ

・「おいしいぼたもちが食べたい」でも「いやしいと思われるのはいやだ。」というのが児の気持ちです。自分の思った通りに事が進んでいるうちはよかったのですが、「幼い人は眠いのです。寝かせておいてあげましょう。」と思わぬ方向に事態が進んでしまいます。これは大変。そこで、児は呼ばれてからしばらくして「はい」と返事をしてしまいました。とんでもなく、間の抜けた返事になってしまったのです。これを聞いた僧たちは、大笑い。でも、その笑いには温かい人間味がこもっています。